

2013年度 事業報告

はじめに 2013年度の事業収入を主とする当期収入は23百万円を超え、2007年度以来最大で、東日本大震災で寄付金が増えて20,286,704円となった2011年度を上回りました。これは、事業のために企業や公的機関から受けた助成金が大きかったことが挙げられます。その結果、国内では東日本大震災被災農地の復興支援及び国外ではラオスでの学校を中心とした植林事業の2大事業を推進することができました。

国内の東京以外の多くの地点でも企業によるコイン仕分けボランティアが増え、新しい広報機会が開けました。以下に2013年度の事業報告をいたします。

1. 支援事業

(1) 開発途上国の再建復興支援事業

● 緑いっぱいプロジェクト in ラオス

2012年度からラオスの北部で植林活動を通じて人々の暮らしと自然を守る事業を実施しています。2013年度はパクウー地区、シエングエン地区及びルアンプラバン地区において、35.55haの植林を実施し、人々の暮らしに役立つマンゴーやオレンジなどの果樹3000本の他に保水性の高いアカギとメングを合わせて11,200本を植林しました。この植林には地域住民363人が参加し地域の自立心を養うことにつながりました。2年間で60haに19,400本を植林しました。この事業には地球環境基金及び三井物産環境基金から助成金を受けました。



● フィリピン台風被災復興支援

11月8日にフィリピン中部を襲った大型台風は甚大な被害をもたらしました。当協会はホワイロー・コミッション（ニューヨークに本拠を置く有力な女性団体）と協力し、フィリピンのDAMPA（貧困地域の人々を支援するフィリピンの全国組織）を通じて支援活動をしました。当協会は3万ドルを送金し、被害状況の把握に始まり、緊急支援物資（衣類・薬品を含む）の配布、仮住まい建設のための資材支援、沿岸居住禁止政策に伴う住民の新居住地確保、仮設住居の生活改善などに活用されています。



● ブータンへの救急車寄贈

名古屋競馬場株式会社と藤田保健衛生大学病院の協力を得て、5月に救急車1台をブータン政府の健康省に寄贈しました。名古屋からコルカタまでは船で、コルカタからは陸送と時間もかかり、手続きも大変でしたが、無事ブータンに到着し、南部のグレプー市にある地域中央病院を根拠に活用されています。ブータンでは広い地域に人口が分散しているため、患者の長距離輸送が多く、救急車の重要性は高く、役立っています。



(2) 東日本大震災復興支援事業

● 復興の桑事業—緑いっぱいプロジェクト in 仙台

2012年度に仙台市荒浜の津波被災畑に76株の桑の苗木を植えて見事に生育し、その葉から桑パウダーの生産ができ、2013年には7000本の苗木を新たに植えました。総勢33名のボランティアが参加しました。秋に桑の葉を収穫し、直ちにパウダー加工し「復興の桑茶—シャン・ドゥ・ミュリエ」として販売が開始しました。10月には農家の方々が中心となり「農事組合法人シャン・ドゥ・ミュリエ」が設立され、地域の方々が主体となり桑の六次産業化を進めていける基盤が作られました。桑の研究をされている大学教授、公的機関の専門家などの指導も受けられるようになりました。



11月には盛大な収穫祭が開催され、多くのボランティアの方々が参加しました。桑茶は健康食品としてカルシウム、鉄などのミネラル分を豊富に含むほか、健康強化成分も多いので好評です。日本ハビタット協会は、地域の人々が主体となり桑の六次産業化を進めていけるようさまざまな支援をしました。この事業には三菱商事からの助成金を受けました。

● 石巻市雄勝小学校支援

石巻市雄勝小学校は東日本大震災で津波が校舎の屋上に達する深刻な被害を受けました。校長先生はじめ教職員が険しい裏山に生徒たちを避難させて全員無事でした。その後石巻市河北町の河北中学校に教室を借りて授業を続けていました。2013年4月に石巻北高等学校の敷地に、雄勝小学校の新校舎が完成しました。リサイクルのプレハブ建物だったため多くの問題が発生したため、騒音防止のためのカーペットと更衣室整備、ランチルーム用椅子とテーブルの調達、靴箱と履き替えスペースの整備などを支援しました。



● ハビタットサンタ

前年に引き続いて2013年12月に被災地域の子供達にクリスマスプレゼントを贈りました。南三陸町立志津川保育所には発表会などに使う多目的ひな段と本を贈りました。石巻市立雄勝小学校と釜小学校の生徒たちには図書カードを贈りました。また雄勝小学校のスキー教室に合わせて、スキー用具を届けました。



● こども自立支援プロジェクト

東日本大震災から3年が経過し、里親のもとに引き取られた孤児達も、徐々に自立の時期を迎えています。子ども達がそれぞれの生活の場で良い子ども時代を過ごし、自立していけるよう支援することが求められています。日本ハビタット協会は、里親、ファミリーホーム、施設、児童相談所、研究者などが立場を超えて、協力して活動している「こどもの夢ネットワーク」を支援しています。「こどもの夢ネットワーク」では研修会を開き、里親などが抱える問題についての意見交換や子どもの自立を援助するシステム作りを進めています。

2. 広報事業

● 女川獅子舞支援

伝統芸能の復興により地域の再活性化を促していくため、2012年度より女川町の「女川港大漁獅子舞まむし」を支援しています。2013年10月19、20日横浜で開催された「よこはま国際フェスタ 2013」に参加してもらい、勇壮に踊りながら一人ひとりの厄を噛む獅子舞が参加者に喜ばれました。11月2日には、仙台の「杜の市場」で開催した復興の桑の収穫祭においても獅子舞で会場を盛り上げました。



● イベントへの参加

次のイベントに出展しました。グローバルフェスタ Japan 2013(10月5,6日東京)、グレーター・トウキョウ・フェスティバル 2013(10月5、6日)、よこはま国際フェスタ 2013、ハートフルフェスタ(10月6日福岡)、世界ハビタットデー(11月7日福岡)、地球市民どんたく 2013(11月9、10日福岡)

● コイン仕分けワークショップ

中学生対象：仙台市村上杉山中学校 24人(5月10日)、多賀城市立東豊中学校 4人(5月17日)
企業対象：JCB大阪支社 11人(7月25日)、JCB名古屋支社 19人(7月26日)、積水フィルム名古屋工場 20人(7月26日)、積水化学京都研究所 21人(8月27日)、あおぞら銀行(9月11日)、(積水化学群馬工場 32人(11月27日)、積水メディカル東京本社 20人(12月10日)、積水化学工業大阪本社 18人(1月14日)、積水成形工業東京事務所 22人(1月29日)

当協会で開催されるボランティアデーは、今年度25回でした。一回の出席者は10人程度で、そのうち、企業からの参加者数は、年間JCB 41人、シトリックス 30人でした。

- 国連ハビタット親善大使の活動・講演

マリ・クリスティーヌ国連親善大使・当協会副会長は今年も全国で講演し、合計 15 回、講演参加者 1,520 人でした。講演では国連ハビタットの活動の説明と資料の配布が行われました。

- まちづくり通信の発行

まちづくり通信 23 号および同 24 号をそれぞれ 7 月、12 月に発行しました。

- 「あの日のこと」公演

2014 年 3 月 14 日に、中目黒 G T プラザホールで「あの日のこと」第 5 回公演を行いました。朗読、歌、音楽、写真投影による 3 月 11 日への思いを新たに舞台と雄勝小学校の震災当時の土井校長先生のお話に参加者約 100 名が感銘を受けました。



- ホーム頁の充実

2013 年に日本ハビタット協会のホームページは約 113 万回、クリックして読まれました（1 日当たり約 3000 回）また、同頁は、年間 26 回アップデートしました。

- かざして募金

年度の終わりに、スマホを日本ハビタット協会のポスターやチラシの協会のロゴマークにかざすだけで寄付をすることができるようになりました。「かざして募金」という名前で SoftBank が提供するサービスです。

3. 協会の運営

- 企業によるボランティア協力拡大

すでに広報活動でご報告した通り企業のボランティア活動が拡大したことが特色でした。年末年始には書き損じハガキ、金券類の回収で、住友商事、全日空、成田国際空港が協力してくださいました。

- 羽田空港国際ターミナルに募金箱 2 基目を設置

2014 年 3 月 28 日に羽田空港国際ターミナルに 2 基目の募金箱を設置しました。この募金箱への寄付金も極めて好調に集まっています。

- 規程類整備など

NPO 法人の活動に関する法律（特定非営利活動促進法）が近年改正になり、当協会の監督官庁も東京都にかわりました。東京都に相談しながら報告書類と規程類の整備を進めています。

- ファンドレイジングの強化に向けて

2013 年度の事業のための収入増は、助成金によるところが大きく、寄付金収入は前年度と余り変わりませんでした。一方、米ドル建ての多い海外事業は円安のため円高の時に比べて経費が増加しています。そこで、今後寄付金の増加をめざして「ファンドレイジング」に一層力を入れる必要が感じられます。

平成25年度 事業報告書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

特定非営利活動法人 日本ハビタット協会

1 事業の成果

広報活動では、企業の社会貢献意欲が高まり東京以外の場所にもコイン仕分けワークショップが拡大するなど多くの成果を挙げることができた。当協会の基幹事業である発展途上国の開発支援で、ラオスにおける植林事業が2年目を迎え、2年間で60haの山地に約2万本の植林を行った。フィリピンの台風被災支援は現地のNGOと協力してただちに活動に入り、初期の物資支援から住宅復興の支援に進んだ。東日本大震災復興支援では、津波被災畑を所有する農業従事者と協力して、塩害に強い桑を7000本植え、その葉を桑茶に加工して販売が始まった。農業従事者が10月に農事組合法人を設立し、桑の六次産業化を目指して組織運営を行っている。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
広報事業 (定款第5条 (1)の事業)	居住に関する国際協力活動への理解を深めるため国連ハビタット等の活動、現地の支援状況の展示等	10月5, 6, 19, 20日 11月9, 10日 2月17日	東京 横浜 福岡	12人	イベント参加者 一般市民 159,000人	156
	国連ハビタットの活動の広報および国際協力等への理解を深めるコイン仕分けワークショップ	5月10, 17日 7月25, 26日 8月27日 9月11日 11月27日 12月10日 1月4, 29日	東京 大坂 名古屋 京都 群馬	13人	中学生28人 会社社員163人	200
	東日本大震災に関する朗読と音楽による舞台公演を開催	3月14日	東京	15人	一般市民 100人	375
	被災地の伝統文化の保持、世代交流を促進し、公演を通じて他地域と交流	10月19日 11月3日	横浜 仙台	4人	一般市民 15,000人	314
	ホームページを刷新し内容を充実させ、インターネットを通じて広報活動	通年	事務局	2人	Web利用者 113万人	632
	新聞、TVなどへの積極的なニュース提供	通年	事務局	2人	新聞購読者 TV視聴者 不特定多数	24
	ニュースレターを作成し配布	7月 12月	事務局	20人	会員 ボランティア イベント参加者 860人	363
	講演会、シンポジウムなどで国連ハビタット及び当協会の活動を広報	年15回	国内諸都市	5人	講演会 シンポジウム参加者 1,520人	234

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
アフガニスタン等 開発途上国の再 建復興支援事業 (定款第5条 (2)の事業)	ラオス国ルアンプラバン県における植林活動による環境保全事業	通年	ラオス	20人	ルアンプラバン県住民 3,000人	4,864
	フィリピン台風被災復興支援事業	11月15日～ 3月31日	主としてレイテ島 タナウアン・タクロバン	60人	被災者及び DAMPA(現地NGO)職員 2,000人	3,067
	ブータン国健康省に救急車1台寄贈	5月	ブータン国 ゲレプー地域 中央病院	20人	ブータン南部住民 15,000人	290
	国連ハビタットの活動 円滑化協力事業	2月	福岡	4人	国連ハビタット福岡本部 及び管轄事務所職員 300人	771
	国連ハビタットの活動に 協力するための募金活動	通年	成田空港 羽田空港他	20人	空港利用者 47,500,000人	72
東日本大震災 復興支援事業 (定款第5条 (3)の事業)	被災地のコミュニティの 強化のための事業	通年	宮城県	5人	宮城県津波被災畑所 有の農業従事者 100人	1,687
	被災地へのボランティア ツアーの実施	5月30日 ～6月2日	宮城県	4人	宮城県津波被災畑所 有の農業従事者 40人	1,093
	被災地の子どもたちの生 活環境を改善する事業	4月 12月	宮城県	4人	石巻市立雄勝小学校 生徒職員40人	1,472
	被災地の子どもたちを元 気づけるための事業	12月	宮城県 岩手県	10人	石巻市釜小学校生徒 40人 岩手県南三陸町立 志津川保育所児童 100人	771
	被災地の子どもたちの自 立支援事業	通年	宮城県 岩手県	5人	親のケアのない子ども 150人 里親 50人	500

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
寄付された物品 の販売事業	募金箱に寄せられたコ インで換金が不可能な ものをコイン商に販売	4月16日、6月4日 7月8日、8月2日 9月6日、11月1日 12月18日、1月29日	事務局	10人	コインコレクター 100,000人	467